

(平成27年度)

社会福祉法人 やおき福祉会

事業報告書

<目 次>

1. 法人事業報告	1～4
2. 法人組織	5
3. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	6～9
② やおき工房	10～14
③ ゆうあいホーム・すてっぷはうす・第2すてっぷはうす	15～18
④ 訪問介護支援センター	19～20
⑤ 陽だまり	21～23
⑥ ハモニティー	24～27
⑦ 就業・生活支援センター	28～30
⑧ 地域活動支援センター	31～32
⑨ サンヒルズ・オレンジ・クローバー・ユースvii・アップル	33～34
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道ヶ丘・くまのこ作業所	35～40
⑪ こどうの家・第2こどうの家	41～42
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所	43～45
(白浜町)	
⑬ かへむ	46～48
⑭ ほわいとホーム	49～51
(みなべ町)	
⑮ すまいる	52～55
⑯ みなべ鹿島ホーム・サンフラワー	56～58
(すさみ町)	
⑰ いなづみ作業所	59～61
(上富田町)	
⑱ 南紀の台ホーム	62～64

法人 事業報告

27年度事業計画法人基本方針に沿って以下の点に取り組んだ。

1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

27年度は、支援を求める利用者にとって選択の幅を増やし、常に利用者のニーズに応えられる実践を目標として取り組んできた。相談窓口においては、法人内福祉サービスの枠を超え、他法人資源との調整等を実施し、地域全体としての視点を持ったニーズ中心の支援を行ってきた。日中の福祉サービス事業所においては、工賃目標をアップさせる等の努力を行いつつ生活面での支援も一体的に実施した。こうしたなか、前年度よりも高水準の支援を展開することができた。就労支援においても地域の一般就労への要として、他職種連携のもと、地域に密着した支援を行った。環境整備面においては26年度後期に完成した龍の里作業所、すまいる「ぼのぼの工房」の開所セレモニーをそれぞれ4月、5月に開催し円滑な運営を行って行くことができた。また、本年度において施行された「マイナンバー制度」に鑑み、個人情報の保護徹底を目的として「特定個人情報取扱規程」を整備するとともに、虐待防止を含む権利擁護等の観点に立った支援を行った。

未達成分野としては、GHの整備として数年の課題となっている「ゆうあいホーム」の屋根修繕が当年度に実施できず持ち越した。その他、白浜地域における福祉サービスに繋がらない支援度の高い人たちの社会参加型事業（デイサロン、余暇対策）の受託申請を行ったが、複数以上の申請があったことにより、選に漏れることとなった。

2. 新会計基準に基づく新たな財務運営

平成27年度から実施された新会計基準について、研修その他の機会を通じて、事務の円滑化に努め、特段の混乱もなく順調な処理を行うことができた。

- ① 事業を確実かつ適正に実施する為の、経営基盤の強化については第1次補正～第3次補正まで、安定した予算編成を行うことができ、年間を見通した運営を行った。
- ② 各事業の利用状況について、月次に所長会議を通じて把握を行い、収支のバランスを確保しつつ、運営課題の検討を行った。
- ③ 固定資産の取得及び大規模な施設整備に関しては、長期計画委員会の中で、計画的に実施できるよう検討を始めたところであり、資産の有効活用運転資金等における具体的な計画・数値については明確な根拠を定めるに至らなかった。
- ④ 定期昇給制度等の環境整備に向けた取り組みについては、給与改定検討委員会を開催し諸課題の検討を図るとともに、変形労働時間制部門等の給与改定を行い、変形労働における負担感の軽減を図った。その他の課題については法人全体の収支を見ながら継続的に検討を行っていきたい。

3. 人材の採用・育成と長く働き続けられるしくみづくり

平成27年度においても一定の離職者があり、採用を必要とする機会が年間通じてあった。27年度当初に人事システムに関する所長、主任、理事アンケートを行い、今後の採用の在り方や仕事におけるモチベーション等、長く働き続けるためのしくみの構築に向けて取り組んできた。抽出された課題について、人事委員会・長期計画検討委員会等において個別に検討しながら28年度において新たなシステムで実施できるようすすめていきたい。

4. 地域における関係機関との連携

各事業所ごとに、授産や行事を通じて拠点地域の関係団体・町内会・住民等との交流を図った。また、利用者の希望等を踏まえ、関係職との連携を密にし、必要に応じた事業所の移行や一般就労に向かう支援を実施した。就業センターにおいては、地域一般企業との連携・協力関係が定着し、相談部門から始まる福祉サービス支援、就労への流れにおいて、年々、地域の連携はすすんできた。そのほか、研修への相互参加、わされん、セルフ協議会、地域自立支援協議会を通しての協働事業や地域課題の検討などを行った。また、各種団体への役員派遣や講師等の派遣などあらゆる場面において協力関係を保つ取り組みを行った。

5. 社会福祉法人としての役割の推進

平成25年度よりすすめられていた「社会福祉法人改革法案」について、役員会・所長会議・研修等の機会を通じて周知と共有を図ってきた。

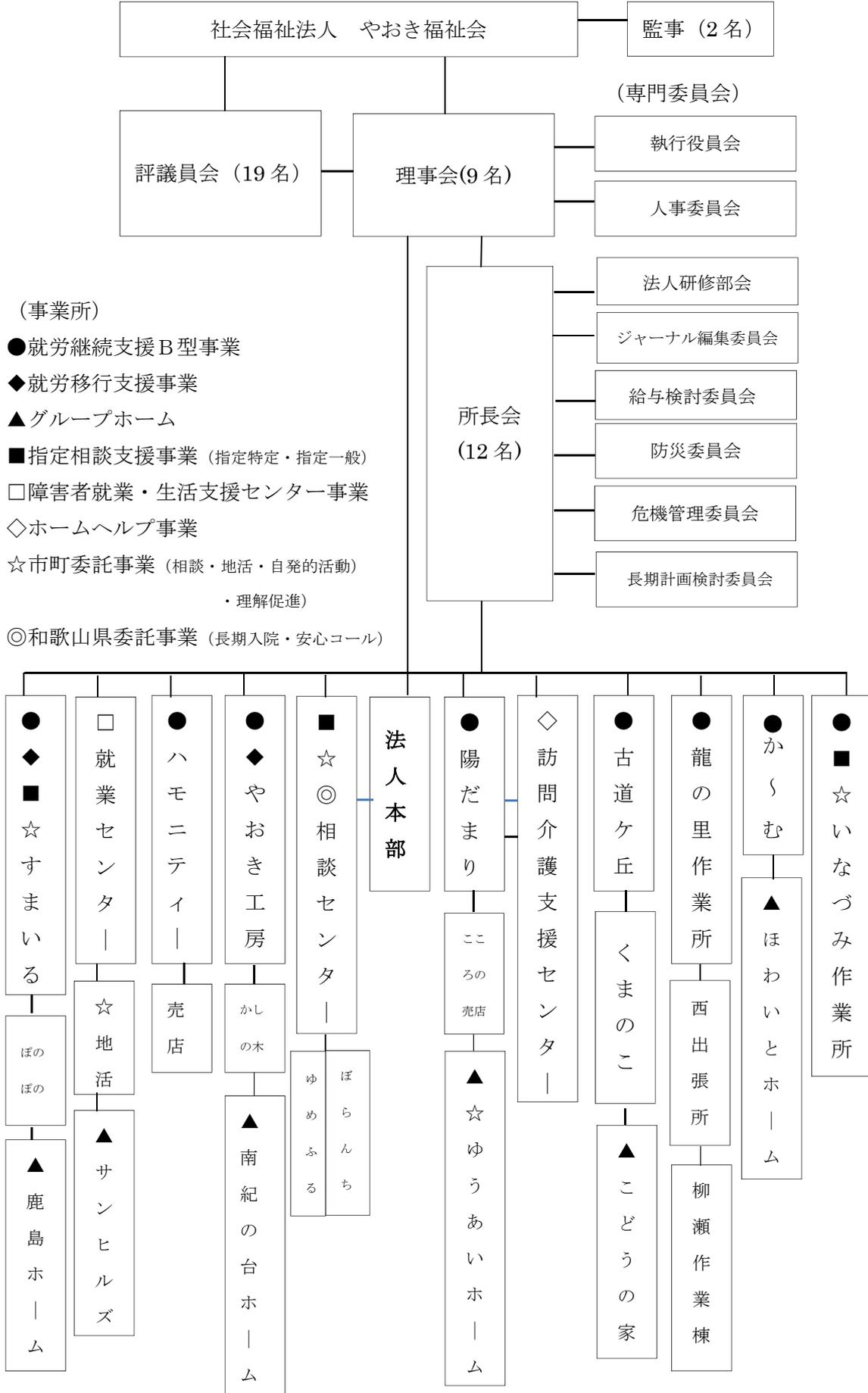
平成28年3月31日に法案が成立し、28年4月から施行されることとなった。概ね、具体的な内容については29年4月からの実施となっているが、28年度中に、それに備えた準備が必要となっている。財務等における情報公開はすでに実施されており、今後のポイントは、役員の実任に関する明確化に伴う評議員会・理事会の機構改革、社会福祉法人の地域貢献施策、そして、財務における「内部留保」の算定等である。これらの課題について、28年度において、年間スケジュールを明確にしつつ、取り組んでいきたい。

6. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	01日 辞令交付式・10年勤続表彰式 14日 執行役員会 18日 龍の里竣工式 21日 理事長事業所訪問 24日 人事委員会	
5月	01日 執行役員会 12日 執行役員会 15日 監事監査(処遇) 18日 監事監査(会計) 19日 ぽのぼの工房開所式 24日 理事会・評議員会 26日 執行役員会	
6月	05日 理事長事業所訪問 23日 執行役員会	4～5日 社会福祉法人改革セミナー 26日 後援会総会 30日 後援会総会 15日 やおきジャーナル 68号発行
7月	14日 執行役員会 28日 人事委員会	10日 法人新人職員研修 24日 法人新人職員研修 31日 法人新人職員研修
8月	01日 理事会・評議員会 07日 役員視察見学 11日 執行役員会 25日 //	07日 法人新人職員研修
9月	07日 人事委員会 08日 執行役員会 16日 龍の里新棟建築工事入札 30日 執行役員会	11日 法人研修(セルフケア) 11日～13日 東京大学学生来所 17日 理事会
10月	13日 執行役員会 15日 人事委員会 27日 執行役員会 31日 理事会・評議員会(第2次補正)	01日 共同募金会該当募金 02日 やおきジャーナル 69号発行 09日 車椅子紀伊半島1周への協力 23日 法人研修(視察) 28日 社会福祉法人改革セミナー
11月	06日 人事委員会 09日 執行役員会	10日 後援会チャリティーゴルフ 13日 法人研修(パーソナリティー障害)

	26日 人事委員会	
12月	01日 法人内希望調査 01日 執行役員会 15日 人事委員会 17日～18日 所長ヒアリング	
1月	12日 人事委員会 17日 一般正規職員任用試験 19日 人事委員会 22日 法人役員・所長新年会 26日 人事委員会	18日 やおきジャーナル 70号発行
2月	08日 みなべ町長懇談 09日 執行役員会 11日 主任正職員任用試験 16日 人事委員会 23日 人事委員会 27日 評議員会・理事会 (第3次補正) 29日 執行役員会	
3月	08日 執行役員会 14日 人事委員会 19日 評議員会・理事会 (当初予算・事業計画) 22日 執行役員会 29日 執行役員会	18日 法人研修 (虐待防止伝達)

7. 法人組織 (27年度の組織及び実施事業)



各事業所 事業報告

【指定特定・指定一般相談支援】

紀南障害者地域生活支援センター

1. 運営概況

平成 27 年度の相談支援事業は、国の福祉サービスであるサービス等利用計画を作成する「指定特定相談支援」、病院からの退院を支援する地域移行支援サービス、地域移行後の定着を支援する地域定着支援サービスの「指定一般相談支援」、田辺市・白浜町の委託による「委託相談支援」及び白浜町委託の「自発的活動支援事業」、「障害者地域啓発等理解促進事業」に加え、和歌山県委託の「精神障害者夜間・休日あんしんコール事業」、「長期入院患者地域移行促進支援事業」の実施と、7 種 9 事業を行ってきた。

また、事業に実施に係り、地域自立支援協議会等との連携や事業運営のための連携会議等を設置して、地域のネットワークを活用したチーム支援の活動を行ってきた。

2. 事業報告

① 指定特定相談支援（計画相談支援）

福祉サービスの利用希望者に対し、サービス等利用計画の作成に関する相談支援を実施した。法人内事業所の利用者においては主としてそれぞれの事業所の兼任相談員がサービス等利用計画の作成を行い、相談センターとしてはサービス等利用計画の作成ができない他法人の利用者の計画を主として実施した。相談センターとして実施した計画相談者数は 56 人であった。

本制度の課題である給付額と実支援のバランスの悪さは 27 年度においても変わらず、質を保つ相談支援を実施するために苦慮している状況が続いた。

② 指定一般相談支援（地域相談支援）

精神科病院からの地域移行支援（退院支援）と、退院後の安定を図ることを目的として地域定着支援を実施した。27 年度の地域移行支援対象者は 4 名で、退院までの期間としては最長 7 か月、最短 2 ヶ月での退院となった。地域定着支援 4 名であり、定着支援期間としては最長 12 か月、最短は 2 ヶ月であった。

③ 市町相談支援事業（委託相談支援）

田辺市及び白浜町から一般的な相談支援の委託を受け、地域生活等に関するあらゆる相談を実施した。それぞれの委託形態は以下のとおりである。

（田辺市）

名 称 田辺市障害児・者相談支援センター「ゆめふる」

所在地 田辺市民総合センター 2階
運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会
派 遣 やおきより専任相談支援専門員 1名（常勤換算 1名）
実績等 年間相談支援件数 8,686件（4法人合計）
（白浜町）

名 称 白浜町障がい児・者相談支援室「ぼらんち」
所在地 白浜町 1279-9
運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会
派 遣 やおきより兼務相談員 2名（常勤換算 0.8名）
実績等 年間相談支援件数 3,456件（2法人計）

※相談支援専門員は相談センターと兼務であるため数値は相談センターとの合計となっている。

（相談センター事務所）

所在地 田辺市下三栖 1475-201（本部敷地）
田辺市「ゆめふる」、白浜町「ぼらんち」での相談のほか、指定事務所である相談センターにおいては、ゆめふるに含まれない田辺市の相談として 965 件、圏域内のみなべ町 189 件、すさみ町 261 件、上富田町 39 件、圏域外の和歌山市 2 件、御坊市 3 件、串本町 54 件、新宮市 6 件、那智勝浦町 32 件、有田市 2 件、県外 11 件と広い地域からの相談に対応した。

④ 長期入院患者地域移行促進事業

和歌山県からの委託を受け、精神科病院に長期入院しており退院したいという意思が芽生えていない人を対象として退院意欲の喚起を目的として実施した。27年度は2名の方を対象として1年間、支援を行ってきた。（支援回数59回）

退院への不安が強く退院には至らなかった。ただ、定期面談で本人に関わり続け、外出支援などを行ってくるなかで、本人の意識は大きく変化してきた。楽しみや本人のなかでの希望等が現れ、次年度においても継続した支援を行っていく予定である。

そのほか、同事業において義務化されている「支援体制整備事業」について、10月と12月に高齢精神障害者をテーマに、関係職の参加を得て支援体制を考えるための研修会を実施した。（計110名参加）

事業の運営にあたっては、職種間の連携会議を月1回開催し、チーム支援の円滑化を図った。

⑤ 夜間休日あんしんコール事業

和歌山県からの委託を受けニーズに基づいた相談を、登録制により実施した。27年度の利用者は11名、年間相談件数は670件であった。このうち、緊急対応は4件であった。（緊急訪問3、危機介入による入院支援1）

相談体制については、相談センター2名、事業所1名に加え、専門性を有す資格者（臨床心理士）を配置して相談にあたった。このほか、事業の運営にあたっては、職種間の

連携会議を月1回開催するとともに、地域自立支援協議会に進捗状況を報告した。

⑥ 白浜町自発的活動支援事業

白浜町からの委託を受け、日中の福祉サービスの利用に馴染まない人たちに対して、週1回のデイサロンを提供するとともに、月1回、調理体験・茶話会・アウトドア（季節行事、ドライブ等）等のプログラム活動を行った。年度途中より利用者も増加し、3～10名程度の参加があった。

⑦ 白浜町啓発等理解促進事業

ぼらんちの移転に伴う広報の実施、冊子の作成を行うとともに、年4回の研修を実施した。

3. 地域ネットワーク活動

① 西牟婁圏域自立支援協議会活動

西牟婁圏域自立支援協議会に参加し、他職種との連携により、地域の体制整備等に係る検討をすすめた。取り分け、やおきとしては地域移行部会の事務局を担い、精神障害者の地域医療と地域生活における諸課題に対し、紀南こころの医療センターとの懇談会、啓発研修、事例検討、県との懇談等を行った。

② 田辺市委託相談支援事業所協議会（ゆめふる運営協議会）活動

4法人によるゆめふるの協働運営について、毎月、協議を行った。27年度は、やおきがゆめふるの委託相談リーダーを担い、積極的な役割を果たした。

③ 医療・保健連携会議の設置

地域の精神科医療等の課題に関し、県から受託した夜間休日あんしんコール事業、長期入院患者地域移行促進事業の推進を目的に、医療・保健・福祉による連携会議を設置し活動を行った。（計24回開催）

④ 白浜町委託相談協議会（ぼらんち会議）活動

ぼらんちの円滑な運営を目的に、相談員会議、全体会議を毎月開催した。また、町内に設置された「白浜町福祉サービス事業所連絡会」に参加した。

そのほか、町との懇談を実施し、ぼらんちの運営課題等について要望した。

4. その他の活動

① 法人研修や他機関の主催する研修に参加するとともに、事業所において事例検討等を頻繁に実施した。

② 専門学校及び大学から「精神保健福祉士」取得過程の学生を受け入れ「援助実習」を実施しているが27年度の実習生はいなかった。

③ 行政及び諸団体に委員等を派遣し、支援協力等を行った。

5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン
5月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン
6月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン、ぼらんち移転
7月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン
8月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン
9月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン、東大生との意見交換会、 紀南こころの医療センター懇談会
10月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン、高齢資源との連携研修
11月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン
12月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン、家族教室支援、高齢精 神障害者の地域移行研修
1月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン、県自立支援協議会での 実践報告
2月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン
3月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン、県との懇談会

6. 数値実績

項目	ゆめふる（4法人）	ぼらんち（2法人）	相談センター
職員数（常勤換算）	ゆめふる全体（7人） やおき派遣数（1人）	ぼらんち全体（2.6人） やおき派遣数（0.8人）	1.2人
総相談支援件数	8,686件（4法人）	※3,456件（2法人）	※4,151件

7. 年代別相談件数（相談センターのみ）

実人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
113人	1	292	975	1020	904	800	1	1

【就労移行支援・就労継続支援B型】

やおき工房

1. 運営概況

今年度は就労移行支援事業（定員 10 名）と就労継続支援事業 B 型（定員 24 名）の 2 事業の多機能型として運営を行った。

就労移行では、給食事業を存続させ改めて所内訓練メニューとして位置づけた。運営的にも適正な収支状況となってきた。利用者はこれまで精神障害の方が大半を占めていたが、はまゆう支援学校卒業生が年々増えてきており、知的障害・発達障害の方の割合が非常に多くなってきて、利用者層が大きく変化してきている。

就労継続 B 型では、利用者の多様化（利用形態、年齢層、障害種別）に伴い、作業環境の調整（個別対応等）が必要になったり送迎体制が煩雑化したり等、色々な課題が出てきている。作業は所内作業や所外作業・かしのき別棟での作業に分かれ、職員が効率的に動けない等の課題はあるものの、作業のバリエーションは増えており、利用者の希望や目的に合わせた作業の選択は可能になってきている。また、今年度は開所時間を 8：45～15：00 までとし、送迎終了後、事務や個別対応等に充てられる時間を確保した。

就労移行では、延べ開所日数 292 日、延べ利用者数 1,999 人、1 日平均通所者数 6.9 人であった。利用者の障害種別（重複含む）は、知的障害 11 名（52%）、発達障害 4 名（19%）、精神障害 4 名（19%）、身体障害 2 名（10%）であった。

就労継続支援事業 B 型では、延べ開所日数 251 日、延べ利用者数 5,010 人、1 日平均通所者数 20.7 人であった。利用者の障害種別（重複含む）は、精神障害 24 名（61.5%）、知的障害 8 名（20.5%）、発達障害 4 名（10%）、身体障害 3 名（8%）であった。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労移行

- ・延べ 17 名が利用した。その内、2 名が就職し、1 名がトライアル雇用中、1 名がインターンシップ事業利用中である。また就労継続 B 型に移った者が 3 名、他法人の就労継続 B 型に移った者が 3 名であった。他に入院による退所が 1 名、自分でパートを探した者が 1 名であった。就労アセスメントが始まり、直 B を利用するための利用者も 4 名いた。
- ・給食事業では、厨房業務に慣れた利用者が就職や職場実習により従事できなくなり、新たな利用者の育成が間に合わないこともあった。また、障害特性により厨房業務に不向きな利用者もおり、利用期限のある就労移行で行っていく上での課題もある。
- ・発達障害者支援センターポラリスと連携し、巡回相談を受ける中で、発達障害の特性

の理解に努め、利用者の支援のあり方を見直した。

- ・就労スキル向上のために、導入を検討していた SST については導入できなかった。職場マナー講座等の外部研修に参加した。

就労継続 B 型

- ・今年度から、週 1 回木曜日の午前中に JA 紀南 中芳養加工場に出向き、梅の種抜き作業を行うこととなった。
- ・所内作業である箱折りの閑散期の作業量確保のため、年度途中よりスポンジ詰め・ハンカチ糸切りの作業を取り入れた。
- ・所外作業として現在行っている「上富田スポーツセンタートイレ清掃」「パルコ 21 ゴルフボール補充作業」「紀伊民報の帯かけ作業」「JA 紀南梅の種抜き作業」については、来年度より施設外就労として行うこととなった。
- ・かしのき作業棟では梅の種抜き作業を行った。(月、火、木、金)
- ・ヤーヤーまつり (田辺市)・空の日フェスタ (白浜町)・たな博 (田辺市)・ふれあい文化祭 (田辺市)・大谷文化祭 (上富田町) でのバザー出店を行った。
- ・授産のスリム化や効率化・機能分化等、年度当初の目的を達せていない面はあった。
- ・今年度の退所者 5 名の内、1 名が就職し、2 名が他法人の B 型に移った。理由は認知症の進行や発達障害の支援スキルの乏しさ等からの対応の困難さであった。

②生活支援活動

- ・自治会活動を支援し、自治会役員を中心にレクリエーション等の企画の立案・実施・会計等が行えるようサポートした。
- ・土曜開所 (10 回) を実施し、余暇支援に努めた。
- ・健康診断を年 1 回行い、精密検査等が必要な利用者については。家族等と連携しながら受診同行を行う等、健康管理の支援に努めた。
- ・防災訓練を年 2 回実施し、地震体験車を活用し地震体験をしたり、地震・津波の講義を受けたりと、防災意識を高められるように努めた。
- ・公共交通機関のアクセスが悪いため、自力通所が困難な利用者については送迎支援を実施した。午前 5 便、午後 4 便の送迎体制で煩雑になってきている。

③個別処遇関係

- ・利用者の希望やニーズ把握に努め、個別支援計画を作成し支援に当たった。定期的に支援の見直しを行った。必要に応じて家庭訪問を実施し、家族の意見の聴取にも努めた。
- ・必要な利用者に対して受診同行や服薬管理支援を行った。
- ・必要な利用者に対して普通自動車免許や原付免許の取得支援を行った。(2 名)

- ・ A 型事業所の利用を希望する利用者には、見学の同行や利用の調整を行った。(あゆみ福祉農園 1 名)
- ・ グループホームの利用を希望する利用者に対して、利用調整を行った。(ほわいとホーム 1 名、ホームきらり 1 名)
- ・ 介護保険サービスが必要な利用者については、介護保険の申請やサービス利用調整等を行った。(デイサービス・ショートステイ)
- ・ 利用者 2 名が全国障害者スポーツ大会わかやま大会に出場、それに向けてのサポートを行った。(1 名男性…精神障害者バレーボール、1 名女性…知的障害者バスケットボール)

3. 地域交流活動

- ・ 大谷文化祭 (3/13) を大谷分館作品展と共同開催して、餅つき交流会や出店・ストラックアウト大会やスーパーボールすくい等を実施して地域住民との交流を図った。地域の子どもたちが楽しみにする恒例行事となっている。
- ・ バザー活動を行い、地域交流・地域啓発に努めた。
- ・ 今年度は、新春餅つき交流会は実施できなかった。

4. その他の活動

- ・ 毎週水曜日は南紀の台ホームの夜間支援のバックアップを行った。
- ・ 保護者懇談会 (3/26) を開催し、9 名の保護者に参加いただいた。家族としての意見を作業所運営に生かす良い機会となった。
- ・ はまゆう支援学校高等部 3 年生の男性 6 名、女性 2 名の計 8 名を就業体験で受け入れた。
- ・ 紀南看護専門学校 3 年生 31 名を精神科看護実習で受け入れた。
- ・ 西牟婁自立支援協議会 就労支援部会に加盟し、わかやま国体・わかやま大会のバザー出店に協力した。セルブ商品の販売も行った。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4 月	お花見 (白浜町平草原)	10 月	運動会 (上秋津小学校) 国体バザー (白浜阪田会館) 全国障害者スポーツ大会 バスケットボール観戦 (田辺市三四六) 全国障害者スポーツ大会 バレーボール観戦 (田辺体育センター)
5 月	チャレンジデー (上富田町) 白浜水族館	11 月	一泊旅行 (大阪) 防災訓練「避難訓練・火災受信機の取扱説明」

6月	稲村の火の館・御坊発電所見学（広川町・御坊市） はまゆう支援学校就業体験（5名）	12月	忘年会 ボウリング&食事&カラオケ （ジストボウル田辺・海鮮問屋まるちょう） はまゆう支援学校就業体験（2名）
7月	スポレク（田辺体育センター）	1月	新年会 カラオケ（スタジオセブン） はまゆう支援学校就業体験（1名）
8月	流しそうめん交流会（上富田町）	2月	スポレク（田辺体育センター） 観梅（みなべ梅林） ふれあい文化祭バザー（田辺市） 健康診断（白浜はまゆう病院）
9月	空の日フェスタ（白浜町） スポレク（田辺体育センター）	3月	映画鑑賞会（ジストシネマ田辺） わされんボウリング交流会（ジストボウル田辺） 大谷文化祭（上富田町） 防災訓練「地震体験車、地震・津波の講座」 保護者懇談会

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	27年4月	28年3月	27年4月	28年3月
定員	10人	10人	24人	24人
実利用者数	12人	9人	27人	32人
1日平均利用者数	9.7人	6.24人	19.0人	23.26人
職員常勤換算配置数	4.0人	3.0人	6.6人	6.6人
年間稼働日数	総稼働日数 290日	休日開所日数 49日	総稼働日数 251日	休日開所日数 12日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）	科目	収入（円）
	給食事業	7,064,830	受託作業	1,764,790
	職場実習	969,130	内職作業	1,050,375
	受託作業	160,000	物品販売・バザー	332,547
	内職作業	365,498	職場実習	4,890
	物品販売・バザー	51,828		
	計	8,611,286	計	3,152,602
工賃実績（一人当たり）	当初目標 なし	実績 26,408円	当初目標 10,000円	実績 9,042円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	7	4	6	7	3	28
女		3	2	3	4	1	13
計	1	10	6	9	11	4	41

【グループホーム】

ゆうあいホーム・すてっぷはうす・第2すてっぷはうす

1. 運営概況

平成27年度はゆうあいホームの食事提供の部分を業者委託（フジコーポレーション）とする事で配置基準に1名の枠が出来、前年度から課題であった現場ワーカーの体制が薄かった部分をカバー出来るように、新たに現場のワーカー1名を加配する事が可能となり、SSTや余暇活動の支援など、これまで実践が少なかった部分の見直しを行った。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・毎月 SST（社会生活技能訓練）を行い、着替えや入浴など日常の生活能力を維持出来るようにサポートを行った。
- ・調理実習を定期的に行い、みんなで作る楽しさやみんなで食べる美味しさを経験する事が出来るようにサポートを行った。

②個別処遇関係

- ・高齢化及び重度化等で金銭管理や服薬管理等の個別のかかわりが必要な利用者が増加しており、27年度はゆうあいホーム、すてっぷはうす計24名の利用者の内、22名に対して金銭管理及び服薬管理の個別支援を行った。
- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

3. 地域交流活動

- ・陽だまりと連携してやおき夏祭りを開催し、近隣住民や学生ボランティアとの交流を深める事が出来た。

4. ボランティア事業活動

障害者当事者活動支援

①調理実習交流会

場 所：龍神保健センター

日 程：平成27年6月24日（土）10:00～13:00

スタッフ：倉谷光穂（龍神行政局）、南美代子、篠崎恵子（龍の里作業所）

参加人数：8名

経費：4,327円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	4,327円	材料費

②やおき祭り

場 所：ゆうあいホーム駐車場

日 程：平成27年8月21日（金）18：00～20：00

参加人数：350人

経費：301,310円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	206,104円	材料費
その他の費用支出	54,960円	電気設備費
賃借料	1,296円	CDレンタル代
保険料	5,000円	傷害、賠償保険
賃借料	1,000円	鉄板レンタル代
水道光熱費	10,950円	電気、ガス、水道代
印刷製本費	12,000円	コピー代
通信運搬費	10,000円	電話、郵送代

③アートフラワー教室

場 所：ゆうあい食堂

日 程：平成28年2月6日（土）

参加人数：30人

経費：95,138円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	11,138円	講師料 10,000＋源泉 1,138
その他の費用支出	84,000円	材料費

④料理教室

場 所：田辺市民総合センター料理実習室

日 程：平成28年3月12日（土）

参加人数：19人

経費：23,936円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	5,569円	講師謝金 5,000＋源泉 569
その他の費用支出	17,267円	材料費
賃借料	1,100円	駐車場代

小計 424,711円

障害者ボランティア育成

①障害者との地域啓発・体験交流会

場 所：和歌山県立情報交流センター・ビッグU 研修室1

日 程：平成28年3月4日（金）

講 師：北田雅子氏

内 容：動機づけ面接法の魅力

参加人数：79名

経 費：86,889円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	33,411円	講師謝金 30,000+源泉 3,411
旅費交通費	36,318円	講師旅費
印刷製本費	10,800円	垂れ幕代
賃借料	6,250円	会場費
その他の費用支出	110円	お茶代

小計 86,889円

障害者ボランティア団体活動支援

① 親子サークル「カンガとルー」活動支援

日 程：平成27年6月9日（火） 平成27年7月7日（火）

平成27年8月11日（火） 平成27年9月8日（火）

平成27年10月13日（火） 平成27年11月10日（火）

平成28年12月8日（火） 平成28年1月12日（火）

平成28年2月9日（火） 平成28年3月8日（火）

場 所：トモジャズダンススタジオ

講 師：廣田智子氏

内 容：ダンス教室

参加人数：延べ112名（平均11人）

経 費：200,000円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	100,000円	10,000×10回（講師分）
その他の費用支出	50,000円	5,000円×10回（アシスタント分）
賃借料	50,000円	5,000円×10回（会場費）

小計 200,000円

合計 711,600円

5. その他の活動

6. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	ドライブ	
5月	白浜ドライブ、こいのぼりバザー	
6月	防災訓練	
7月	B B Q	
8月	大掃除、やおき祭り	
9月	空の日フェスタ	
10月	外食	
11月	ソフトバレー大会、グラウンドゴルフ大会、保護者懇談会	
12月	大掃除、クリスマス会、忘年会	
1月	外食	
2月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3月	健康診断、買い物支援、忘年度会	

6. 数値実績

ホーム名	ゆうあいホーム		すてっぷはうす	
	27年4月	28年3月	27年4月	28年3月
定員	20人	20人	6人	6人
実利用者数	20人	20人	5人	5人
職員常勤換算配置数	5.4人	5.4人	1.5人	1.5人
年度中の入退所	入 所 退 所	人 人	入 所 退 所	人 人
利用市町村内訳	田辺市	11人	田辺市	3人
	白浜町	1人	白浜町	人
	みなべ町	1人	みなべ町	1人
	上富田町	2人	上富田町	人
	すさみ町	1人	すさみ町	人
	その他	4人	その他	1人

【ホームヘルプサービス】

訪問介護支援センター

1. 運営概況

前年と比較しても利用者数の大きな増減はないが、入院などの理由で休止中の利用者数が増加傾向にあり、新規利用者も見込めない状況であったので、通院介助や移動支援を重点的に行った。

2. 事業報告

①身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

②家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行います。
- 買い物…利用者の日常生活に必要となる物品の買い物を行った。

③通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

⑤個別処遇関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

3. 数値実績

施設名	訪問介護支援センター			
	利用者数	27年4月 39人	28年3月 38人	自立支援 36人
登録ヘルパー数	27年4月 9人	28年3月 9人		
年度中の入退所者	入 所 退 所	4人 1人		
	休 止 中	4人		
利用市町村内訳	田辺市	34人	田辺市	30人
	白浜町	3人	白浜町	2人
	みなべ町	2人	みなべ町	6人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	人

【就労継続支援B型】

陽だまり

1. 運営概況

利用者の多くは長期入院、長期ひきこもりの状態であった方が非常に多いが、常に「ゆっくりでも全然大丈夫」をモットーに、まだ不安等で福祉サービスに繋がっていない方が最初の一步を踏み出せる場として、日中のサポートを継続して行っていく。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労希望のメンバーに対して法人内であれば、すまいるに繋ぎ、法人外希望の利用者に対してはA型事業所へ繋ぎ、メンバーがステップアップ出来るようにサポートを行った。

②生活支援活動

- ・挨拶の練習や着替え洗顔などADL向上に繋がるよう支援を行った。
- ・自力で出来る事が増えるように、通所支援（バス、自転車の練習）を行った。

③個別処遇関係

- ・個別支援計画を作成し、サービス利用者の課題や意向を確認し合い、定期的に見直しを図りながら支援を行った。
- ・利用者の日々の状態を把握し、必要な支援及び助言を行うと共に、生活相談も継続して行った。また、必要に応じて、医療機関受診同伴や、関係機関との連携を図った。

3. 地域交流活動

- ・ゆうあいホームと連携し、やおき夏祭りを開催して地域住民や学生ボランティアと交流を深める事が出来、参加者も300名を超えるなど好評であったので、毎年やおき夏祭りを開催する。

4. その他の活動

- ・自分達で野菜（じゃがいも、シシトウ、大根、ホウレン草、サツマイモ）を育て、それを食する事で、日頃の食事の大切さを分かってもらう事に繋がった。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見(平草原)・DVD鑑賞(レク)	
5月	ハピリオンシティ(ホウリング・買物)	
6月	紫陽花鑑賞(平草原)	
7月	納涼会(素麺・寿司・かき氷)	
8月	やおき夏祭り(たきない町)	
9月	プラネタリウム・白浜水族館(レク)	
10月	BBQ(みなべ備長炭館)・和歌山イオンモール(レク)	
11月	アドベンチャーワールド・川久ホテル(日帰り・一泊旅行)	
12月	クリスマス会・忘年会	
1月	初詣・二宮 or トマト&わか(レク)	
2月	みなべ梅林観梅(レク)	
3月	エネルギーランド(レク)・送別会	

6. 数値実績

事業種別	(例) 就労移行支援		(例) 就労継続支援B型	
定員			27年4月 20人	28年3月 20人
実利用者数			27年4月 28人	28年3月 29人
1日平均利用者数			27年4月 22人	28年3月 21人
職員常勤換算配置数	26年4月 人	27年3月 人	26年4月 5.1人	27年3月 5.1人
年間稼働日数	総稼働日数 日	休日開所日数 日	総稼働日数 250日	休日開所日数 11日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	商品売上	351,940		
	農園売上	16,320		
	受託作業	2,241,917		
	雑収入	64,240		
	計			2,674,417
工賃実績(一人当たり)	当初目標 円	実績 円	当初目標 5,000円	実績 7,006円

7. 利用者の年齢層

年代別表	20代	30代	40代	50代	60代	
	3名	2名	11名	9名	4名	

【就労継続支援 B 型】

ハモニティー

1. 運営概況

平成 27 年度ハモニティーは、定員 20 名、登録者 27 名でスタートする。1 年間での新規利用者数は 1 名で、退所者数は 2 名であった。

①障害種別（手帳取得別）

障害名	利用者数
精神障害	21 名
知的障害	4 名
身体障害	1 名

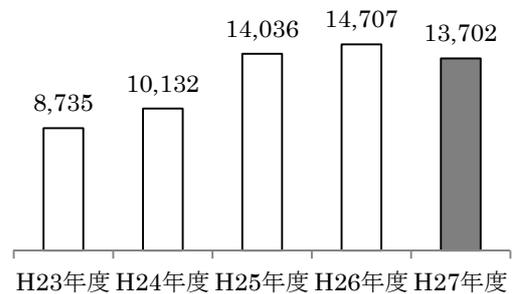
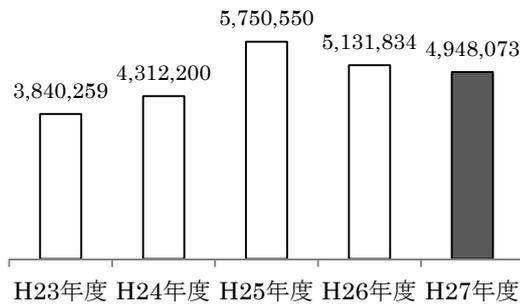
②利用実績（月別）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	20.9	21.3	21.0	21.2	19.9	19.5	19.8	19.2	18.9	19.0	20.7	20.1
開所日数	21 日	18 日	22 日	21 日	18 日	19 日	21 日	19 日	19 日	18 日	20 日	22 日

2. 事業報告

①就労支援活動

- ・自主製品(八起焼)製造販売 ・印刷物受注販売 ・古紙、空き缶、古着回収
- ・受託作業(箱折り、電子部品パレット入れ、新聞帯封、売店、梅種抜き) ・職場実習
(事業収入推移) (月額平均工賃推移)



②生活支援活動

掃除や食器洗いなど、日常生活を送るうえで最低限必要とされるものについては、訓練としての位置づけで当番制において実施してきた。

自治会活動においては、週 1 回の頻度で、レクリエーションや学習会、茶話会などを

実施し利用者同士の親睦や楽しみの機会を設けてきた。利用者の体力や健康維持の点では、ラジオ体操を日課とし、スポーツレクリエーションも定期的の実施してきた。

③個別処遇関係

利用者との定期的な面談や相談、日々の状態の把握に努め、自己実現に向けた個別支援計画の作成、確認を継続しておこない支援をおこなってきた。また、支援の方向性について、職員間で共有できるよう、週 1 回の職員会議や個別支援計画作成会議を定期的の実施してきた。

新規利用希望者については、市町村、ゆめふる、こころの医療センターと連携しながら、見学や体験利用の受け入れをおこなってきた。

65 歳以上の利用者が増えてくるなかで、地域包括支援センターや訪問介護事業所と連携する機会が多くなってきた。

3. 地域交流活動

古紙等リサイクル事業を通し、多くの地域住民の方々に協力をいただくことができた。古着リサイクルでは、毎日のように地域の方が事業所を訪れてこられる。

4. その他の活動

文里自主防災会主催の地域合同避難訓練に参加、非常災害に備える貴重な訓練の機会となった。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	2 9 16	お花見 いちご狩り スポーツレク	花見（平草原） みなべ まあと工房 大屋体育館
5	7 14 21 31	ドライブレク 釣りレク 買い物レク 溝掃除	印南 SA 芳養堤防（サビキ釣り） ユニクロ、パビシ 文里町内会
6	4 11 18	釣りレク 買い物レク スポレク	芳養堤防（サビキ釣り） パビシ、ユニクロ 大屋体育館
7	2 9 22 23 31	外食レク カラオケレク 職員研修 職員研修 食品衛生講習	和わ メロディーホール 相談支援従事者研修 相談支援従事者研修 田辺保健所
8	6 11	釣りレク 夕涼み会	芳養堤防（サビキ釣り） ハモニティー駐車場にて BBQ

	24	昼張替	ハモニティー昼張替工事
9	3 7 10 11	外食レク 職員健康診断 レク(ブドウ狩り) 職員研修	和わ 紀南観光ぶどう園 臨床動作法について
10	1 1 5 8 29	赤い羽根募金運動 国体観戦 職員健康診断 釣りレク ドライブレク	コーナン田辺店前 田辺スポーツパーク (ボクシング) 芳養堤防 (サビキ釣り) みなべ (ぼのぼの)
11	5 6 10 13 13 19 20 26 26 28 29	スポレク わされん運動会 ゴルフコンペ 職員研修 訪問看護師との合同会議 ハモニティー1泊旅行 " 職員研修 避難訓練 八起焼実演販売 生涯学習フェスティバル	大屋体育館 田辺スポーツパーク (優勝) やおき後援会 (参加賞に八起焼) パーソナリティー障害の理解と対応 ハモニティーにて 京都・大阪・滋賀 " サービス管理責任者研修 火災発生時の避難、初期消火訓練 よってって稲成店 市民総合センター
12	3 3 8 10 17 24	安全運転管理者講習 外食レク がんばるデー署名活動 買い物レク スポレク 忘年会・クリスマス会	田辺警察 和わ きょうされん国会請願 (オーシティー) パピシ、ユニクロ 大屋体育館 クリスマス会
1	5 7 14 21 28	初詣、消防出初式 ドライブレク 買い物レク スポーツレク 茶話会	闘鶏神社、扇ヶ浜 エビとカニの水族館 ユニクロ、しまむら 大屋体育館 (か〜む合同) ぜんざい、おしるこづくり
2	4 13 18 25	外食レク ふれあい文化祭 観梅 防災訓練	新職員歓迎会を兼ねて「とれとれ亭」へ バザー参加(ハナヨアリーナ) みなべ梅林へ 大地震・津波を想定した避難訓練
3	3 10 13 19 31	買い物レク メンバー健康診断1班 メンバー健康診断2班 保護者会 花見	パピシ、ユニクロ、セリア 白浜はまゆう病院 白浜はまゆう病院 保護者9名参加 平草原

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	27年4月 20人	28年3月 20人
実利用者数	27年4月 27人	28年3月 26人
1日平均利用者数	27年4月 21.0人	28年3月 20.1人
職員常勤換算配置数	27年4月 4.8人	28年3月 4.8人
年間稼働日数	総稼働日数 237日	休日開所日数 1日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託作業	3,237,465
	印刷事業	924,072
	古紙等リサイクル事業等	582,894
	製菓自主製品事業	203,642
		計 4,948,073円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 月額15,000円	実績 月額13,702円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	1	2	9	2	3	17
女	0	0	2	2	2	3	9
計	0	1	4	11	4	6	26

【障害者就業・生活支援センター】

紀南障害者就業・生活支援センター

1. 運営概況

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行ってきました。

2. 事業報告

事業の報告としては例年通り当初計画に沿って就業・生活支援を行ってきました。

今年度の特徴としては、事業閉鎖・工場閉鎖による解雇者が7名、自主退職者が5名と転職および再就職者への支援が増加しました。ほとんどの方は、短期での離職ではなく1年から13年と長期に努められた方々になります。特に長期に努められた方々に関しては以前の職場に関する慣れが強く、再就職に関する実習では諸問題が発生し即就職に至っていないケースがあります。また、一般校および大学を卒業された発達障害者の方々の相談も数件あり、この方々は社会経験が少なく企業実習に至るまでの時間を要し、家族の障害理解を得るための面談が必要でありました。

職場実習については、法人内外からの当事者を企業へ斡旋・同行することで職員との関係性の構築を早期から計画し、障害特性の把握と作業スキル・社会性の向上に努め、就職後の定着支援への効率化を図りました。4か所の就労移行事業所との連携会議とB型事業所との会議等により、就職希望者は増加しております。また、実習・準備・開拓・定着と、個々の障害特性の多様さから日々の支援が複雑化しています。さらに、職場適応援助者制度（ジョブコーチ支援制度）の改正もあり事務手続きなども複雑化しています。

この他、以前からの案件としては「触法障害者就労支援」「高齢化に伴う能力低下への支援」「当該年度支援学校卒業生の定着支援」についても継続しております。高齢化により精神症状が安定せず一時的にA型利用となった方や、現在も長期に訓練を継続している方もおられ、できるだけ当事者のニーズに対応できるよう努めています。

近年の傾向としては、他法人の登録者の増加により全体の60%が知的障害者の方となり数年前からの逆転状態となっています。

①就労支援活動

- (1)運営協議会開催
- (2)指導者研修会への参加
(全国就業支援ネットワーク研修6月)
- (3)県下就業・生活支援センターネットワーク研究会参加
(橋本市・和歌山市・新宮市「串本」)
- (4)特別支援学校連絡会開催
(7月にて当該年度卒業生の動向情報)
- (5)ハローワークとの連絡会議開催
- (6)各種就労支援制度学習会開催と活用
(センター会議内にて学習、職安との連携にて活用)
- (7)発達障害者・高次脳機能障害者・難病者への就労・相談支援強化
(ソプラスにて開催される発達支援プログラム会議への参加)
- (8)西牟婁圏域自立支援協議会就労部会活動
(一般就労部会：施設からの就職支援会議、圏域JC連携)
- (9)職場定着者促進のための在職者の交流活動
(ワーカーズ活動参照)
- (10)職場定着のための訪問支援強化
労働局より定着支援ワーカーの加配あり(1名)
- (11) A型事業所との連携による一般就職相談・定着支援
 - ・A型事業所からの就職相談対応
 - ・A型事業所への通所者の相談対応、事業所との情報共有

②生活支援活動

- (1)医療、保健、福祉、労働、特別支援学校、行政との連携
- (2)就労自助グループの育成(ワーカーズクラブ)
- (3)相談事業所との連携
- (4)就労型グループホームのバックアップ体制の確立
- (5)行政書類手続き支援、代行

③個別処遇関係

医療同行、生活相談、就業相談については必要応じて随時行う。

3. 地域交流活動

町内会活動参加

4. その他の活動

特になし

5. 行事報告

月	行事	備考
7月	BBQ	50名参加
11月	研修（ネット研修）	43名参加
12月	忘年会	48名参加
1月	1泊旅行	53名参加
2月	研修（交通安全、避難訓練）	40名参加

毎月第一火曜日 ワーカーズ会議 （12回開催 平均参加者 36名）

毎週木曜日 ワーカーズ運動 （2月末 32回 平均参加者 16名）

6. 数値実績（12月末）

登録者数 206名（内新規40名） 相談・支援件数 5,450件

職場実習・職業準備訓練 47件 就職者数 32名

定着支援件数 2,106件

【田辺市地域活動支援センターⅢ型】

紀南地域活動支援センター

1. 事業経過

3年目の運営となる27年度については利用者が前年度より増となった。当初目的であった施設を利用しながらない当事者の居場所としての活動については効果があったと考えられる。また、短時間就労者の余暇活動場所としても利用があり、安定就労への効果も見られた。

日中作業は基本的に自由であるが、当事者のニーズより内職作業に取り組む。ルアー削り・缶バッジ制作などを行い、3ヶ月に一度のイベントなどを取り組み、所属感の向上を図った。

また、希望者については職場実習として請負清掃作業への斡旋、就職希望の方への就労支援も行い、27年度はA型作業所への移行1名、一般就職（短時間含む）6名となっている。

2. 職員体制

管理者 1名（兼任）

支援員 1名（専任）

3. 利用の実績

(ア) 月別平均利用者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数						
開所日数						
平均利用者数						

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数						
開所日数						
平均利用者数						

(イ) 市町別 (3月末)

田辺市	みなべ町	上富田町	すさみ町	白浜町
人	人	人	人	人

(ロ) 障害別 (3月末)

知的	精神	身体	発達	その他
人	人	人	人	人

(ハ) 年齢別 (3月末)

～20歳	20代	30代	40代	50代	60代
人	人	人	人	人	人

(ニ) その他

【グループホーム】

サンヒルズ

1. 運営概況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）
サンヒルズを主とし定員24名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

2. 事業報告

世話人の配置については夜間の短時間支援と分けて、日中の支援についてはバックアップ施設として就業・生活支援センター職員とジョブコーチが就業場所への訪問を行った。就業定着支援の一環として生活支援・指導も行い早期の問題解決に努めた。

1名の退所者については、単身生活への意向について対応を行い、物件探し・引っ越しの支援を行い、今後は就業・生活支援センターが主となり生活支援を継続する。

女性の入居希望者に対しての新設を行い、男女での住み分けと地域のニーズに対応した。

設立当初より目的であった「地域での生活」については上記での退所者の報告にもあるとおり1名の移行者となる。

①生活支援活動

生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・食事 他）

医療同行（精神科通院同行・その他の医療機関への同行）

②個別処遇関係

就職相談・定着相談・個別の悩みの相談 など

3. 地域交流活動

特に無し（各ホームで町内会への参加はしている）

4. その他の活動

平成27年和歌山国体・大会に向けての当事者参加競技（バスケットなど）での練習会対応。その他種目参加者在籍企業に対しての連絡・報告などを行った。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		毎月木曜スポレク 毎月第一火曜日 ワーカーズ会議
5月		
6月		
7月	ワーカーズ BBQ	
8月		
9月		
10月	ワーカーズ旅行	
11月		
12月	ワーカーズ忘年会	
1月		
2月		
3月		

6. 数値実績

ホーム名	サンヒルズ（全体）			
定員	27年4月 20人	28年3月 24人		
実利用者数	27年4月 18人	28年3月 22人		
職員常勤換算配置数	27年4月 5人	28年3月 6人		
年度中の入退所	入 所 退 所	5人 1人		
利用市町村内訳	田辺市	9人		
	白浜町	0人		
	みなべ町	1人		
	上富田町	2人		
	すさみ町	1人		
	その他	9人		

【就労継続支援B型】

古道ヶ丘

1. 運営概況

・古道ヶ丘の環境を活かした授産（山菜、お茶、ブルーベリーなど）に力を入れるべく、月々の授産活動を計画立てていたが、職員不足などの理由により計画通りの時期に山菜・お茶の作業に取り組むことが難しい状況となった。さらに台風による、ブルーベリーの収穫減・バンガローの集客減となり、授産収入が昨年より落ち込んだ結果となった。

2. 事業報告

①就労支援活動

【田辺市委託事業】

- ・バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃をおこなう）
- ・施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）
- ・ブルーベリー収穫（栽培、収穫）

台風の影響をうけ全滅（来年度は近くのブルーベリー農園とも連携をはかり安定した収穫ができるように工夫する）

【授産事業】

- ・27年度より新規内職作業（かげろうの箱折り）を始めた。定期的な納品がなく安定した利用者の作業としては課題が多い物となった。

②生活支援活動

- ・年1回の健康診断を実施した。
- ・防災計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- ・利用者自治会主体で季節ごとのレクリエーションを企画し行った。

③個別処遇関係

- ・個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。
- ・SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、基本的（礼儀作法など）なものを中心に行った。

3. 地域交流活動

- ・中辺路町小学校 4年生のみなさんが来所し、施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれた。
- ・中辺路中学校から夏休みのボランティア体験として、施設利用者とともに箱折り作業、バンガロー清掃を行った。
- ・地域の祭り（翔龍祭・ふれあい文化祭など）に参加した。

4. その他の活動

- ・東大生が古道ヶ丘で作業所とグループホームの視察研修を行い、利用者とも懇談の場をもち交流をはかることが出来た。
- ・はまゆう支援学校保護者と今後の利用をふまえた見学・説明会をひらいた。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月		
6月	防災訓練	
7月		
8月		
9月	バーベキュー	
10月	おつかれさま会	
11月	ソフトボール大会、翔龍祭	
12月	一泊旅行、クリスマス会、班別レク	
1月	班別レク	
2月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3月		

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	27年4月 30人	28年3月 30人
実利用者数	27年4月 33人	28年3月 33人
1日平均利用者数	27年4月 24.9人	28年3月 24.8人
職員常勤換算配置数	27年4月 5.6人	28年3月 5.6人
年間稼働日数	総稼働日数 250日	休日開所日数 7日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	保養所委託事業関係	3,118,850円
	内職作業	350,329円
	アルミ缶回収など	643,150円
	計	4,112,329円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 15,000円	実績 10,398円

7. 利用者の年齢層

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	1	2	4	4	2	2	15
女	2	3	6	2	5	0	18
計	3	5	10	6	7	2	33

【就労継続支援 B 型】

本宮くまのこ作業所

1. 運営概況

近隣バザーなどに積極的に参加し、くまのこ作業所の広報活動に力をいれ、地域交流を図った。休日開所を原則古道ヶ丘と合同で行い、参加しやすい行事を実施することで、利用者の参加意欲を促進し給付費増を図った。※新規利用者 1 名増

2. 事業報告

①就労支援活動

箱折り、茶葉選別、野外作業を中心としつつ、自主製品（アクリルタワシ、ビーズストラップ）に力を入れた。ビーズストラップは、作業工程が複雑だった為、視覚化するなど創意工夫することにより、従事メンバーの増加及び作業効率化を図った。

②生活支援活動

年 1 回の健康診断を実施。
防災計画に基づき年 2 回の防災訓練及び非常食体験実施。
季節ごとのレクリエーションを企画及び実施。

③個別処遇関係

個別アセスメントを行い、支援計画に基づき支援を実施。

3. 地域交流活動

本宮女性会の方々と本宮大社近くの花壇に花植えを実施。
定期的にゆる体操を実施し、地域ボランティアの方々との交流。

4. その他の活動

本宮地域に事業所活動を周知する為、月 1 回「くまのこだより」を発行。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4 月	花見、調理実習	
5 月	古道バイキング	
6 月	防災用非常食提供	
7 月	防災訓練・鉄板焼き・古道バイキング	

8月	古道バイキング・川遊び・大掃除	
9月	古道ヶ丘合同 BBQ・調理実習	
10月	古道バイキング	
11月	古道ヶ丘合同旅行、古道バイキング こだま祭りバザー、ソフトボール大会	
12月	父母の会合同クリスマス会、 古道合同クリスマス会・年末大掃除	
1月	初詣、古道バイキング	
2月	ふれあい文化祭バザー、古道バイキング	
3月	ボウリング大会、古道バイキング、健康診断 防災訓練	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
	27年4月	28年3月
定員	11人	12人
実利用者数	11人	12人
1日平均利用者数	9人	10人
職員常勤換算配置数	3.6人	2.87人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数
	253日	13日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	自販機	668,590
	受託作業(清掃)	281,000
	内職(箱折り・お茶)	216,430
	自主製品	21,360
	アルミ缶・古紙回収	126,971
	バザー・わされん活動	66,793
	計	1,381,144
工賃実績(一人当たり)	当初目標	実績
	5,500円	5,936円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	1	1	1	0	0	2	5
女	0	1	2	0	3	1	7
計	1	2	3	0	3	3	12

【グループホーム】

こどうの家・第2こどうの家

1. 運営概況

- ・日中施設の古道ヶ丘・くまのこ作業所と協力して運営をおこなった。
- ・ゆめふる・サポートセンターゆう・ぼらんち等、各相談機関と連携を図った。
- ・家族との連携を深めるため、GHでの活動を報告した。

2. 事業報告

- ・年間で、8回の休日レクレーションを実施した
- ・利用者の健康管理で、インフルエンザの予防接種を実施（11月）
- ・防災計画に基づく防災訓練（大雨等による洪水を想定）の実施（9月）
- ・緊急用防災品の備蓄の準備・防災リュックの配布

①生活支援活動

- ・給食サービスの実施 朝食：火水金土日曜日 夕食月火木金土曜日
（株）南陽食品との契約を継続し、食事提供をおこなった
- ・掃除や洗濯など日以上生活力を身に付けるための家事援助や調理実習の実施
- ・休日のレクレーション買い物支援をおこなった
- ・病院への同行受診の実施
紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の補助をおこなった
- ・自治会の支援
毎月定期的実施し、ホームでの生活について利用者同士で話し合うための支援をおこなった

②個別処遇関係

- ・日々の生活費の使い方などの助言や管理支援をおこなった
- ・服薬についての助言や管理の支援をおこなった
- ・個別支援計画の作成に努め利用者個々にあった支援と生活の質の向上を目指した

3. 地域交流活動

- ・町内会への加入

4. その他の活動

- ・職員の直接処遇技術の向上のため、各種研修会に参加した

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月		10月	温泉に行こう～in 龍神温泉
5月	ドライブ（すさみ道の駅） 調理実習（お好み焼き）	11月	
6月	こどうの家BBQ大会	12月	忘年会
7月	ドライブ（ごまさんスカイタワー）	1月	
8月		2月	調理実習（おでん・炊込みごはん）
9月	調理実習（カレーライス・サラダ）	3月	

6. 数値実績

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
定員	27年4月 5人	28年3月 5人	27年4月 6人	28年3月 6人
実利用者数	27年4月 4人	28年3月 5人	27年4月 5人	28年3月 3人
職員常勤換算配置数	26年4月 3.48人	27年3月 3.48人	26年4月 3.48人	27年3月 3.48人
年度中の入退所	入 所 退 所	2人 1人	入 所 退 所	0人 2人
利用市町村内訳	田辺市	3人	田辺市	3人
	白浜町	1人	白浜町	1人
	みなべ町	1人	みなべ町	人
	上富田町	1人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	1人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	0	1	2	2	1	6
女	0	0	2	1	2	0	5
計	0	0	3	3	4	1	11

【就労継続支援B型】

龍の里作業所

1. 運営概況

新施設（本棟）の完成に伴い、本棟では利用者の軽作業や食事のサービスを行い、外部との連絡や事務作業を集中させた。利用者や職員にとって大幅に環境改善を行うことができたとの同時に、立地条件としても国道沿いという人目に付きやすい場所に変わり、寄付やアルミ缶回収などの地域住民の協力にも繋がった。

柳瀬出張所では食品関係の作業を行い、大まかな作業種別の住み分けにより作業の合理化と衛生面での配慮を行った。しかし、それにより屋外の作業や企業実習で職員が各方面に分散することになり、新規の利用者には小集団の必要性が発生しなかったため、西出張所を有効活用することができず、次年度への課題を残すこととなった。

2. 事業報告

①就労支援活動

特別養護老人ホーム「龍トピア」に清掃員として2名が就職を果たした。

授産活動においては、高野山・熊野古道ブームにあやかって道の駅に卸していた「よもぎの葉」「龍神杉のコースター」「クッキー類」などの自主製品の売り上げが増え、生産が追いつかない状態となった。特に「龍神杉のコースター」は地域の交通安全運動の啓発品として取り上げられ売り上げを伸ばした。

便利屋や農産物の生産も固定客が付き、季節にもよるが安定した収入を得ることができた。梅の種取りや渡辺ウッドライフの下請け作業については、納品に時間がかかるため、地元での請負作業の開拓が課題として残った。

龍神マッシュ組合では、下請け作業のシール貼りと企業内実習の工賃の引き上げを図ることができた。

②生活支援活動

年金申請や権利擁護事業の活用について経済的支援を行った。

健康面に心配がある利用者については毎月一回の健康相談を実施し、保健師の指導を受けている。

③個別処遇関係

個別支援計画とサービス利用計画に基づき、主治医や関係機関と連携しながら個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。

3. 地域交流活動

例年通り、翔龍祭や地域のイベントに参加するとともに、昨年に引き続き南部高校龍神分校との交流を広げ、5年ぶりの文化祭の開催にもバザー出店をして協力した。

4. その他の活動

ダンス、書道や絵画などの文化活動は日常の作業に追われ、実施することはできなかった。避難訓練（年二回）を実施。

5. 行事報告

月	行事等	備考
4月	竣工式、買い物レク	
5月	屋外レク（新庄公園）	
6月	避難訓練、スポーツレク	
7月	健康診断（40歳以上）	
8月	買い物レク	
9月	高齢者交流会、グラウンドゴルフ大会	
10月	龍神分校体育祭、社協バスツアー（マリーナシティ他）	
11月	わされん運動会、一泊旅行（USJ）、翔龍祭	
12月	龍神分校文化祭、忘年会	
1月	餅つき大会、初詣（本宮大社）	
2月	ふれあい文化祭、避難訓練、健康診断（39歳以下）	
3月	屋外レク（アドベンチャーワールド）	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
	26年4月	27年3月
定員	20人	20人
実利用者数	20人	22人
1日平均利用者数	17.1人	17.8人
職員常勤換算配置数	5人	5人
年間稼働日数	総稼働日数 246日	休日開所日数 14日（うち振替4日）

	科目	収入 (円)
	授産科目及び授産収入	焼き菓子・パンの製造
バザー		121,690
龍神杉のコースター		96,650
よもぎの葉		93,262
アクリルたわし		11,397
農作業		76,580
便利屋		203,600
ねじ袋詰め		147,071
梅種取り		345,367
椎茸シール貼り		171,499
龍神マッシュアップ		256,800
アルミ缶回収		43,902
花いっぱい運動		1,170,000
くじ折り		12,000
和紙ハガキ		7,054
そうめん、うどん販売		90,060
チョコレート、昆布販売		113,760
その他	20,880	
計	3,064,795	
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 6,900円	実績 7,589円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	4	1	1	5	1	12
女	0	2	1	5	2	0	10
計	0	6	2	6	7	1	22

【就労継続支援B型】

か〜む

1. 運営概況

前年度の平均利用者数 12.3 人に対し、今年度は 15.0 人と一日あたり 3 人の増加という結果となり、給付費収入が安定してきている。利用者の入れ替わりは多く、新規利用者の受入れが 6 名、退所者が 9 名であった。退所者の内訳は、他事業所への移行が 4 名、入院や利用意思の減退によるサービス利用の中断者が 5 名という状況であった。

2. 事業報告

①就労支援活動

- (1)梅干しの種抜き作業に関して、取引業者を一社増やす事ができ、梅干しの原料が切れ、事業所内での作業が中断される事が無い状況を確保する事ができた。また梅干し作業全体の収入増にもつながり、授産収益の柱になってきた。
- (2)箱折作業についても 2 業者から内職を受託し、継続して作業に取り組める環境になっている。自分達で達成可能な生産目標を掲げながら、日々の作業を行なう事で、これまでよりも生産高があがってきた。
- (3)バザー活動でのジュース販売を実施。売れ残り商品の販売を切掛けに、事業所内でのジュース販売活動を利用者の仕事と位置付けて継続して実施する事とした。
- (4)白浜町より、国体で配布するパンフレットの袋詰め作業を受託する事ができ、単年度ではあるが収入を増やす事ができた。

②生活支援活動

- (1)支援が必要な利用者に対して、服薬管理や金銭管理を実施した。服薬や金銭については受け渡しに関するトラブルを防ぐため、記録を整備して行なった。
- (2)買物に行く機会を提供して欲しいと希望する利用者が多く、月 1 回の定期的な買い物支援を継続して実施した。
- (3)年 1 回の健康診断を実施した。
- (4)利用者の親睦を深める事を目的に、定期的なレクリエーション活動を行なった。陽だまりやハモニティーとの合同スポレクを実施する等、他事業所との交流も行なった。
- (5)趣味・趣向の違いや、費用負担を求める必要が生じる内容等、全体で実施する事が難しい事柄のレクリエーションについては、小グループを形成し班別レクとして、高校野球観戦、テーマパーク（アドベン等）、龍神温泉、寿司バイキング等を実施した。

③個別処遇関係

利用者一人一人に必要な支援が効果的に実施できるよう、日々の相談対応や面談を適宜取り入れ、個別支援計画の作成を行なった。また、職員会議や個別支援計画作成会議を定期的実施し、職員間の情報の共有や支援の方向性の統一に努めた。

3. 地域交流活動

- ①社会見学活動として、海上保安庁巡視船の視察見学を実施した。
- ②休日に行なわれている地域行事に参加した。
- ③ペットボトル回収で集まったフタを白浜第一小学校に届ける活動を行なった。

4. その他の活動

- ①法人で実施した職員研修、新人職員研修に参加した。外部研修にも参加し、職員の見識を高める機会を持った。尚、外部研修に関しては、事業所内での伝達研修も一部取り入れて実施した。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見（古道ヶ丘）	10月	調理実習、スポーツレク
5月	イノブタ祭り（すさみ町）	11月	調理実習
6月	防災訓練	12月	調理実習、クリスマス会
7月	買物レク（りんくうイオン）	1月	初詣、ホテルランチ（マナー講習）
8月	海上保安庁巡視船見学	2月	健康診断、防災訓練、ふれあい文化祭
9月	BBQ、空の日フェスタ（白浜町）	3月	買い物レク（ロマンシティ）

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
	27年4月	28年3月
定員	20人	20人
実利用者数	26人	24人
1日平均利用者数	15.7人	15.4人
職員常勤換算配置数	4.7人	4.7人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数

	244日	6日
	科目	収入(円)
授産科目及び授産収入	内職(梅・箱)	710,505円
	依託作業(運搬等)	381,870円
	アルミ缶回収等	110,335円
	その他	407,005円
	計	1,609,715円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 4,000円	実績 4,280円

7. 利用者の年齢層(平成28年3月末)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男		1人	1人	3人	5人	1人	11人
女			3人	3人	4人	2人	12人
計		1人	4人	6人	9人	3人	23人

【グループホーム】

ほわいとホーム

1. 運営概況

平成 27 年度は 10 名の定員に対して、年間を通じて利用者の入れ替わりも無く、常時満床の状態経過した。入院等も無かった為、運営面も安定した状況となっている。ただし、利用者の区分については、見直しがなされる中で区分 3 から区分 2 に見直される方が 2 名あり、年度当初は区分 3 の方が 3 名であったが、現在は 1 名のみとなっており、給付費収入は当初の見込みよりも減額となった。

職員体制については、年度当初はゆうあい当直員による兼務体制で夜間支援を行っていたが、新規当直員の採用後は、ほわいとホーム専属の当直員 2 名体制で安定した勤務体制が組める状況となった。

2. 事業報告

①生活支援活動

- (1) 平日の給食提供を継続して実施した。休日については、食材の購入を支援する為、買い物の同行支援を実施した。また、月 1 回の調理実習を継続して実施し、調理体験を積む機会を提供した。
- (2) 歩行運動の機会を持つと共に、継続的に体重測定を実施し、体調維持・増進のための取り組みを行なった。
- (3) 居室整理が必要な利用者に対し、整理整頓の為に必要な支援を行なった。
- (4) 入浴が習慣化されていない利用者に対し、継続した入浴の促しを行ない衛生面の向上に努めた。
- (5) 余暇活動支援として、休日におけるレクリエーションの頻度を増やし、利用者の意向に沿う取り組みを継続して実施した。
- (6) インフルエンザ等の感染症罹患者が発生した際には、マニュアルに沿った対応により、集団感染につながらないよう努めた。また、日中事業所への連絡を行ない情報の共有化に努めた。

②個別処遇関係

- (1) 定期的な個別面談を実施し、アセスメントに基づく個別支援計画の作成を行なった。また、半期毎に見直しを行なった。
- (2) 支援が必要な利用者に対し、金銭管理や服薬管理を行なった。

3. 地域交流活動

- ①白浜町公民館分館主催の餅つき大会に参加し、地域住民と交流の機会を持った。
- ②町内会の清掃活動に積極的に参加し、町内美化に協力した。
- ③白浜町内で実施された防災訓練に参加した。

4. その他の活動

- ①月1回の定例自治会を継続して実施した。自治会活動として行なう誕生日会やレクリエーション活動の企画立案、実施を支援した。
- ②保護者懇談会を実施（参加者は3名）し、活動報告を行なうと共に、意見交換の機会を持った。不参加の家族に対しては、懇談会の記録を作成し送付した。
- ③か〜むとの合同レクを実施し、相互交流の機会を持った。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見	10月	温泉レク（リバージュ日置）
5月	バラ園散策	11月	BBQ、グラウンドゴルフ、防災訓練
6月		12月	餅つき大会、忘年会（外食）
7月	買物レク	1月	保護者懇談会
8月	海上保安庁巡視船視察	2月	ふれあい文化祭
9月	空の日フェスタ	3月	マナー講習会（外食）

1. 毎月定例：調理実習、自治会、ゴミブリ駆除点検

6. 数値実績

ホーム名	ほわいとホーム	
定員	27年4月 10人	28年3月 10人
実利用者数	27年4月 10人	28年3月 10人
職員常勤換算配置数	27年4月 2.6人	28年3月 2.7人
年度中の入退所	入 所 退 所	0人 0人
利用市町村内訳	田辺市	3人
	白浜町	1人
	上富田町	1人
	すさみ町	1人
	和歌山市	1人
	美浜町	1人
	串本町	1人
	紀宝町	1人

7. 利用者の年齢層（平成28年3月末）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男				3人		1人	4人
女			1人	3人		1人	6人
計			1人	6人		2人	10人

平均：47歳

【就労移行・就労継続支援B型】

すまいる

1. 運営概況

平成 27 年度の運営方針で掲げてきた、就労移行と就労継続の環境整備を、5 月からぼのぼの工房を開店し機能の充実を図った。

主に就労移行者を対象に、直接店舗販売（菓子販売、ランチ等）を行い、地域密着での就労訓練を行った。販売活動の活性化を図る事が出来る様になり、今年度は、安定した収入確保に繋げる事が出来た。

継続して訓練費支給の安定と、授産活動の活性化を図っていきたい。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労移行支援 就職者 4 名（内 1 名トライアル雇用中）

- ・施設内訓練－就労基礎訓練として軽作業（箱折、包装、梅巻き等）を通して、本人の特性、作業の正確性、持続性、耐久性、適度な速度の観察を行った。
施設内では、コミュニケーション課題が多かった為、月 2 回の職場マナー講座を開き、挨拶、敬語の使い方、コミュニケーションの反復指導を行い、基礎訓練の充実に努めた。
日々、就労訓練実践の中で課題克服練習も取り組み、習得し意識付けを図る事が出来た。
- ・施設外訓練－就業センターとの連携実習に積極的に参加し、実習の振り返りを本人と行い、具体的な目標をたて、次へのステップを考える助言を行った。
目標達成した際は、達成感のある表情で報告があり、同じ目標を持っている利用者との交流を図る事も出来、モチベーションアップにも繋がった報告もあった。
環境が変わる事の不安もあったが、連携実習前に、本人との話し合いを行い、自己決定し、取り組んだ事も、本人のやる気に繋がったと思う。
また、職場開拓は、以前から地場産業と連携し、就労訓練出来る協力事業所を探していた。今年度、みなべ町で実習先を確保する事が出来、自力通勤で参加出来る利用者も増え、地域社会との交流や、活動の場が広がった。
継続して日常生活、仕事での安全性を身に付けていく事にも、力を入れ取り組んでいきたい。
- ・ぼのぼの工房－平成 27 年 5 月に開店し、就労移行の出張所として就労訓練で、飲食販売、喫茶業務等、主に接客業に取り組んだ。仕事の段取りを把握出来ている利用者も増えているが、就職していく為、就労訓練したい利用者確保が、課題となっている。すまいるで取り組んでいる SST の練習を、接客業の実践の場で、挑戦する事が出来るようになり、緊張度も高いが、スキルアップに繋がっている。

授産活動の固定収入を確保する目的は、今年度達成する事が出来た。来年度も売り上げを上げていく為にも、継続して地域のお客様、企業、福祉団体に周知してもらうよう宣伝に力をいれ、季節に応じた商品開発等も取り組んでいきたい。

就労継続支援B型 就職者 2名（内1名トライアル雇用中）

- ・施設内訓練－今年度は、授産活動メニューの見直しを行い、利用者中心で作業出来る環境作りを心掛けた。5つの作業メニューはあるが、単純作業が多い為、利用者の得て不得手はあるが、個々に全種類参加出来る仕事メニュー作りを、利用者ニーズを把握しながら考えていきたい。
- ・施設外訓練－施設外作業（梅加工業・梅採り・梅枝拾い・清掃業等）を行い、仕事する体力作り、仕事への意識付けを行った。また、就業センターとの連携実習にも参加し、2名の利用者が、就労に繋がった。来年度も継続して、1名は就職に繋げていく事を、目標にしていきたい。

②生活支援活動

「自立訓練」

- ・身だしなみ－歯磨き、洗髪、爪、服装チェックを、朝礼時2人1組になり毎日取り組む事で、本人の動機付けになり気にかける事が、出来るようになってきた。
継続して利用者、職員全員で取り組み、習慣づけていきたい。
- ・掃除、給食当番－自立訓練として、利用者全員に取り組んでもらっている。
継続して取り組んでいる為、利用者同士で声かけ協力し、施設内の美化にも繋がっている。継続して衛生面に気をつける意識を持ち続けるよう、役割を考えていきたい。
- ・調理実習－調理実習は、年2回予定していたが、年1回の取り組みになってしまった。
日々調理している方は、「ゆっくりしたい。」という方もいたが、調理実習が始まると、みんなで調理する楽しさがあり、いつの間にか参加している。
出来れば年2回、調理実習に取り組んでいく方向で検討していきたい。

「健康管理」

- ・健康診断－通所者は、年1回健康診断を受けてもらい病気の早期発見、早期治療に努めた。
- ・受診同行－利用者の体調面の観察を行い、気になる利用者は、声かけを行い定期受診の際、受診同行し主治医と情報交換等を行い、精神面の安定に繋がる支援に取り組んだ。緊急性が高い際は、関係機関との連携を密にとり情報交換、情報共有を行い、緊急対応する体制作り、役割分担の確認を行った。

③個別処遇関係

利用者の意向を尊重し、出来るだけ具体的な目標設定を心がけ支援計画の作成を行った。定期的な振り返りを行い、目標達成後は、次の目標に移行、目標達成出来ない

ければ継続もしくは、方向転換し違う目標設定を行った。本人の意向も大切であるが、家族の意向も確認しながら、個別支援計画作成に繋げていくよう心がけていきたい。また、行動障害がある利用者には、日常支援の中で虐待に繋がる支援をしていないか、日々職員会議で、振り返りを行い虐待防止に努めた。

3. 地域交流活動

平成 25 年よりみなべ町の委託作業で受けている目津・小目津公園清掃作業を、3 年間継続し取り組んだ。清掃中、地域の人より声かけがあると、挨拶返しができるようになったり、地域の人と触れ合う機会が増えている。古着回収も、頻繁に古着を持って来てくれる地域住民も増え、持ってきてくれた時の対応も、年々上手になってきている。今年度は、和歌山県国体もあり、みなべ町開催時、花の苗管理で協力させて頂き思い出に残る年であった。

4. その他の活動

「相談事業」

みなべ町から委託で受けているみなべ町障害者相談支援事業と、計画相談事業を行った。障害者相談支援事業で継続して相談にのっている相談者は、45 人、今年度の新規相談者は、22 人であった。新規相談者の相談で 1 番多かった内容は、発達障害の相談者は、就労相談が多く、精神障害者の相談者は、将来の不安、知的障害の相談者は、人間関係（仕事場・友人）の不安、単身生活希望等の相談内容であった。福祉サービス内容の情報提供を行い、利用希望の方は、計画相談を実施し、福祉サービスに繋ぐ事が出来たが、利用希望のない相談者の方は、電話相談、来所相談等での対応にとどまっている。また、困難事例もあり、みなべ町関係機関だけでなく、連携機関をもっと増やし、緊急時の体制整備を図っていく事を、行政と一緒に検討していきたい。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4 月	花見・漆器作り	10 月	国体観戦（軟式野球）・旅行（淡路島）
5 月	スポレク（上富田）・ボーリング	11 月	グランドゴルフ大会
6 月	国体観戦（山岳リード）	12 月	調理実習（シチュー）クリスマス会
7 月		1 月	初詣・ぼの祭り
8 月	ぼの祭り	2 月	観梅
9 月	DVD 鑑賞・白浜水族館	3 月	

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	27年4月	28年3月	27年4月	28年3月
定員	7人	7人	20人	20人
実利用者数	8人	9人	26人	27人
1日平均利用者数	6.6人	7.0人	21.2人	19.6人
職員常勤換算配置数	2.5人	2.5人	3.9人	4人
年間稼働日数	総稼働日数 257日	休日開所日数 37日	総稼働日数 255日	休日開所日数 35日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	自主製(ぽの) バザー	2,015,638	自主製(ぽの) バザー	2,015,638
	施設内売上	698,207	施設内売上	1,629,160
	施設外売上	1,167,673	施設外売上	554,375
	受託作業		受託作業	663,469
	計	3,881,518	計	4,862,642
工賃実績(一人当たり)	当初目標 20,000円	実績 21,427円	当初目標 15,000円	実績 18,402円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	7	5	4	3	3	22
女	0	5	2	4	1	2	14
計	0	12	7	8	4	5	36

【グループホーム】

みなべ鹿島ホーム・浜市・サンフラワー

1. 運営概況

平成 26 年 9 月にみなべ鹿島ホーム移転、サテライト型ホーム運営を開始し、入居者も移転した住居に慣れ、日常生活の安定が図れています。

サテライト型ホーム入居者も、単身生活の不安もあったが、世話人が定期訪問し、掃除、買い物を一緒に行い、単身生活に移行していく自立訓練を行った。今後は、本人と話し合いを行い、家事援助等のサービスも検討しながら単身生活に移行していく方向で、進めていきたい。また、老朽化しているサンフラワーの移転場所の方向性を、具体的にしていかなければならない。みなべ町福祉団体との話し合いを行いながら、障害者が安心して暮らせる住環境整備を、防災の安全対策も含め、行政と一体になり検討していきたい。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・ 平日の朝食、夕食提供－毎月の自治会で入居者よりリクエストメニューを聞き献立に入れ、手伝い等も積極的に取り組んでくれている。平成 27 年 11 月より、世話人が 2 人になり、みなべ鹿島ホーム、サンフラワー別々での食事提供を行ったが、入居者の希望は、一緒に食事し、賑やかにおいしく食べれるほうが良い意見が多かった。再度、夕食支援は、みなべ鹿島ホーム、サンフラワー合同で、食事提供を行う事になった。
- ・ 健康管理－就労先、施設等で健康診断を受け健康診断結果の確認を、入居者と一緒に行い、自分の気になる健康面の問題は、相談にのり受診の促し、必要な際は、受診同行を行い健康管理の安定に繋がる支援を行った。
冬前は、インフルエンザ予防の為、入居者全員予防接種を受けてもらい集団感染予防に取り組み、1年間入居者全員大きな病気もなく、健康に過ごす事が出来た。
- ・ GH掃除、自室の掃除－定期的な掃除チェックを行い、片付等がわからない場合は、一緒に取り組み整理整頓し衛生面への意識向上の取り組みを行った。毎月自治会の際に、入居者から掃除当番、掃除方法等の話題が意見であり、入居者同士で話し合い、実行出来ている。長期休暇の際も、協力して掃除当番を交替しながら清潔に保つよう心がけてくれている。
- ・ 金銭管理－入居者全員の見守り支援の相談として多かったのは、お小遣いの金額と使い方。お小遣いの希望額を、本人と話し合い金額設定し取り組んでもらった。
定期的に小遣い帳を確認しながら、本人と振り返りを行い、自分のお金は、自分で管理する意識付けを図っている。また、単身生活希望者は、単身生活に移行していく為の、貯金計画も視野に入れ、本人への促しを継続していきたい。

- ・買い物－1人で買い物に行く不安がある利用者は、世話人と一緒に行き買いたい物が、自分で選べるようになり、予算内で計算しながら買い物する事も、少しずつ出来るようになった。

②個別処遇関係

個々に個別支援計画を作成し、定期的に入居者との振り返りを行い、自立生活の安定に繋がる支援を、本人の意向を聞きながら取り組んだ。

サンフラワー入居者の2名は、みなべ町での単身生活を希望している。

実際、サテライト型ホームで、単身生活体験している入居者から話を聞く事も出来、単身生活への希望も強くなってきている。就労している入居者が多い為、就業・生活支援センターと情報交換しながら、継続し就労面、生活面の安定に繋げていきたい。

3. 地域交流活動

- ・溝掃除
- ・集団防災訓練
- ・バザー参加

4. その他の活動

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		自治会
5月	避難訓練	自治会（レク関係）
6月		自治会
7月		自治会
8月	みなべ花火祭（サンフラワー）・アドベン	
9月	女子2名引っ越しの送別会	自治会
10月		自治会
11月		自治会
12月	クリスマス会・忘年会・大掃除・調理実習	自治会
1月	ぽのぽのバザー参加	自治会（役員改選）
2月		
3月	避難訓練・お別れ会	自治会

6. 数値実績

ホーム名	鹿島ホーム・浜市		サンフラワー	
定員	27年4月 4人	28年3月 4人	27年4月 4人	28年3月 4人
実利用者数	27年4月 4人	28年3月 4人	27年4月 4人	28年3月 3人
職員常勤換算配置数	27年4月 1人	28年3月 1.5人	27年4月 1人	28年3月 1.5人
年度中の入退所	入 所 退 所	人 人	入 所 退 所	1人 2人
利用市町村内訳	田辺市	2人	田辺市	2人
	白浜町	人	白浜町	人
	みなべ町	1人	みなべ町	1人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	1人
	古座川町	1人	串本町	1人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男		2		1	1		4
女		1	2	1	1		5
計		3	2	2	2		9

【就労継続支援B型】

いなづみ作業所

1. 運営概況

いなづみ作業所では、利用者の健康管理に力を入れてきた。その結果として、インフルエンザの感染拡大の防止や、生活習慣病の早期発見等、長期に休む利用者が出なかった事は経営上の観点からも喜ばしい。

一方で高齢化の波は如何ともし難く、若い利用者に見学や体験に来てもらう努力はしているものの、なかなか正式利用には至らないのが現状である。

2. 事業報告

①就労支援活動

3人の利用者が一般就労に至り、既に10ヶ月が経つが問題なく就労できている。雇用主からも重要な労働力として認められ、安定して通勤できている。

しかし、いなづみにとっては主要メンバーの3人が抜けた事もあり、委託業務の規模縮小を余儀なくされているが、一人ひとりの工賃はそれほど変化は無い。

②生活支援活動

高齢化に伴い、腰痛や糖尿病、高血圧等持病が悪化しつつある利用者が増えている。

定期受診に付き添い、医師の指示をヘルパーに伝え、家族と共にサポートしている。

また、衛生面の問題も見られるようになり、フケや悪臭が目立つ利用者には、個々に面談し指導を続けている。

③個別処遇関係

週一度の職員会議（主に木曜日）で、利用者一人ひとりの課題を話し合い、職員間で問題の共有を図ってきた。

個別支援計画では、担当者が立てた計画を職員全員でチェックし、間違いがないかどうか、抜けがないかどうかを話し合っている。

3. 地域交流活動

町内行事に積極的に参加し、いなづみ作業所の存在を広く町民に知ってもらっている。同時に、バザーの売り上げによる工賃アップにも繋がっている。

4. その他の活動

地震災害が起こった時の避難場所の確認や、心構え等を学習する機会を設け、消防署にも協力を仰いで訓練を行った。

5. 行事報告

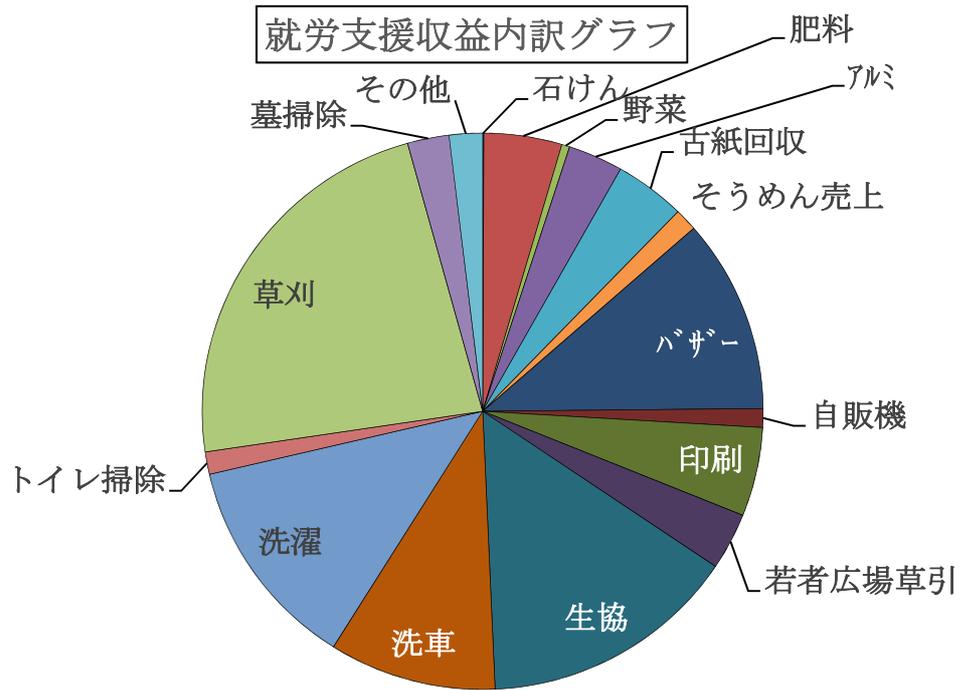
月	行事等	月	行事等
4月	愛の会和歌山バザー参加	10月	一泊旅行
5月	イノブタダービー参加	11月	福定の大銀杏と紅葉狩り
6月	買物と秋津野ガルテン食事会	12月	すさみ町愛のバザー・忘年会
7月		1月	エビとカニの水族館
8月		2月	みなべ観梅とぼのぼの工房見学
9月	買物とよし平・でん食事会	3月	自治会

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	26年4月 20人	27年3月 20人
実利用者数	26年4月 22人	27年3月 23人
1日平均利用者数	26年4月 16.5人	27年3月 17人
職員常勤換算配置数	26年4月 4.9人	27年3月 4.7人
年間稼働日数	総稼働日数 252日	休日開所日数 12日
授産科目及び授産収入 (別紙参照)	科目	収入(円)
	受託	3,329,956円
	自主製品	231,598円
	販売・バザー	630,846円
	リサイクル・その他	422,484円
	計	4,614,884円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 時給 443円 月給 14,380円	実績 時給 445円 月給 16,228円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	2	3	3	2	8	18
女	0	0	0	2	1	2	5
計	0	2	3	5	3	10	23



区分	内訳	収入	区分合計	
自主製品	石けん	3,100	231,598	5.0%
	肥料	207,428		
	野菜	21,070		
リサイクル	アルミ	145,970	334,130	7.2%
	古紙回収	188,160		
販売	そうめん売上	60,300	630,846	13.7%
	バザー	520,492		
	自販機	50,054		
受託業務	印刷	238,640	3,329,956	72.2%
	若者広場草引	153,000		
	生協	686,812		
	洗車	444,700		
	洗濯	573,800		
	トイレ掃除	60,000		
	草刈	1,062,204		
	墓掃除	110,800		
その他	88,354	88,354	1.9%	
合計		4,614,884	4,614,884	100%

【グループホーム】

南紀の台ホーム

1. 運営概況

年度当初7名で始まったが、5月に1名が病気療養のため退所し、8月に拒薬による退所、3月末に一人暮らしへの移行のために1名が退所した。9月に1名が入所し、年度末で利用者は5名となっている。

職員体制は2名体制（常勤換算1.5名）で、やおき工房がバックアップした。

利用者の日中活動としては、一般就労が2名、やおき工房3名（就労移行1名、就労継続B型2名）となっている。

2. 事業報告

① 生活支援活動

- ・平日の朝食・夕食の給食サービスを提供した。
- ・毎週（土）には館内清掃を行い、共有スペースの清掃を利用者が協力しながらできるように支援した。
- ・トイレ掃除やフロの準備・掃除・ゴミ出し等については利用者持ち回りでかかわれるように支援した。
- ・自治会活動をサポートし、利用者同士で話し合い解決できるよう支援した。また、自治会主体で行事等の企画実施ができるように支援した。
- ・土曜日は買い出し支援や余暇支援を行った。
- ・やおき工房がバックアップを行い、毎週（水）の夜間や長期の休み等（ゴールデンウィークや盆休み・正月休み）は日直の支援を行った。

② 個別処遇関係

- ・個別支援計画を作成し、関係機関や家族等と連携しながら必要な支援を行った。
- ・必要に応じて金銭管理を行い、適切に管理できるよう支援した。
- ・必要に応じて服薬管理や受診同行等の支援を行い健康面に配慮した。
- ・必要に応じて買い物同行支援を行い、必要な買い物ができるように支援した。
- ・必要に応じて手続きの同行等を行い支援した。
- ・衛生面の保持が難しい利用者には、定期的に洗濯や掃除等の家事援助を行った。
- ・年度途中で退職を余儀なくされた利用者があり、次の職場環境への不適應のため長年治まっていたてんかん発作が再発したりする等があり、就業センターや紀南こころの医療センター等との連携を密にした。
- ・一人暮らしを希望する利用者については、相談支援事業所と連携し一人暮らし（単

身アパート) への移行を進めた。保証人の確保が難しかったため、保証人がなくてもよい物件を探した。

- ・アルコールの問題を抱える利用者が若干名おり、就労に支障が出てきたり、急性アルコール中毒で病院に運ばれたり、ツケが増えたりということもあり、対応する職員のスキルの向上も必要となってきた。

3. 地域交流活動

- ・南紀の台町内会に賛助会員として加盟した。

4. その他の活動

- ・保護者懇談会は開催しなかったものの、必要に応じて保護者と連絡を取る等した。
- ・紀南こころの医療センターから 1 名、岩崎病院から 1 名が退院に向けて体験利用を重ねている。
- ・全国障害者スポーツ大会わかやま大会に 1 名が出場した。(知的障害者バスケットボール)

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	自治会	10月	自治会
5月	自治会、誕生会	11月	自治会、誕生会 (トマト&オニオン)
6月	自治会	12月	自治会、クリスマス&忘年会 買物ツアー (イオンモール和歌山)
7月	自治会	1月	自治会、誕生会
8月	自治会、誕生会	2月	自治会
9月	自治会、BBQ	3月	自治会、食事会 (かみのマロ)

6. 数値実績

ホーム名	南紀の台ホーム	
定員	27年4月 7人	28年3月 7人
実利用者数	27年4月 7人	28年3月 5人
職員常勤換算配置数	27年4月 1.5人	28年3月 1.5人
年度中の入退所	入 所 退 所	1人 3人
利用市町村内訳	田辺市	1人
	白浜町	1人
	みなべ町	人
	上富田町	1人
	古座川町	1人
	新宮市	1人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男		1	2	1	1		5
女							
計		1	2	1	1		5